

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン フクオカジョシダイガク 公立大学法人福岡女子大学								
フリガナ大学の名称	フクオカジョシダイガク 福岡女子大学大学院（Fukuoka Women's University Graduate School）								
大学本部の位置	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力等を養い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	平成23年度に設置された国際文理学部の理念は、「グローバル化する現代社会が直面している多様な課題に幅広く対応し、その課題解決に貢献していくことを目的に、人文・社会・自然科学の文理にわたる幅広い学問分野を結集して、国際的な共生・共存の視点から総合的に教育研究を行う」ことである。この学部を卒業する学生の受け皿として、新研究科（人間環境科学研究科）を設置し、「健康な生活を支える環境調和型社会づくり」に関する専門知識と技術を理解し、独創性と先端性に優れた研究を可能とする能力を身につけた女性人材を育成する。また、3専攻からなる既設研究科を1専攻に改編することにより、個別化された専門的研究のみならず他領域の専門研究との統合化ができ、現代社会の著しい変化・進展に対応できる総合的な判断力を備え、かつ、地域社会から国際社会までの様々なレベルで直面している課題の解決に貢献できる、高度な専門能力と幅広い視野を持つ女性人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 国際文理学部 環境科学科 食・健康学科 14条特例の実施
	人間環境科学研究科 (Graduate School of Health and Environmental Sciences) 人間環境科学専攻 (Master's Program for Health and Environmental Sciences)	年	人	年次人	人	修士 (人間環境科学)	平成27年4月 第1年次	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号	
計		2	12	—	24				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大学院文学研究科 国文学専攻修士課程（廃止） (△5) ※（平成27年4月 学生募集停止） 英文学専攻博士前期課程（廃止） (△5) ※（平成27年4月 学生募集停止） 大学院人間環境学研究科（廃止） 環境理学専攻修士課程 (△4) 栄養健康科学専攻修士課程 (△4) 生活環境学専攻修士課程 (△4) ※（平成27年4月 学生募集停止） 大学院人文社会科学研究科 言語文化専攻 (4)（平成26年5月認可申請） 社会科学専攻 (4)（平成26年5月認可申請）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	人間環境科学研究科 人間環境科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	34単位			
		43科目	19科目	7科目	69科目				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新設分	人間環境科学研究科人間環境科学専攻		13人 (13)	12人 (12)	5人 (5)	0人 (0)	30人 (30)	0人 (0)	14人 (14)	設置認可申請中
	人文社会科学研究科言語文化専攻		7人 (7)	6人 (6)	5人 (5)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	6人 (6)	
	社会科学専攻		8 (8)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)	
	計		28人 (28)	28 (28)	10 (10)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	20 (20)	
既設分	文学研究科英文学専攻博士後期課程		4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	設置認可申請中
	計		4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	
合計			28 (28)	28 (28)	10 (10)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	21 (21)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		28人 (27)		22人 (22)		50人 (49)			
	技術職員		0 (0)		1 (1)		1 (1)			
	図書館専門職員		1 (0)		3 (4)		4 (4)			
	その他の職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)			
計			30 (28)		26 (27)		56 (55)			
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地	37,543.58㎡	0㎡		0㎡		37,543.58㎡			
	運動場用地	4,018.50㎡	0㎡		0㎡		4,018.50㎡			
	小計	41,562.08㎡	0㎡		0㎡		41,562.08㎡			
	その他	14,333.99㎡	0㎡		0㎡		14,333.99㎡			
合計		55,896.07㎡	0㎡		0㎡		55,896.07㎡			
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
		26,404.1㎡ (27,749.5㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		26,404.1㎡ (27,749.5㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	13室	7室	27室	2室 (補助職員 人)	8室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		人間環境科学研究科			30室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	人間環境科学研究科	188,612 [45,401] (183,402 [45,401])	2,612 [244] (2,612 [244])	14 [14] (14 [14])	1,516 (1,516)	125 (125)	0 (0)			
	計	188,612 [45,401] (183,402 [45,401])	2,612 [244] (2,612 [244])	14 [14] (14 [14])	1,516 (1,516)	125 (125)	0 (0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数					
	2,448.1㎡		250		220,000					
体育館	面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,286.8㎡			弓道場H29年度完成予定						
				-						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		821千円	821千円					
		共同研究費等		10,198千円	10,198千円					
		図書購入費	14,583千円	4,583千円	4,583千円					
		設備購入費	3,442千円	3,442千円	3,442千円					
維持方法の概要	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	県外生の第1年次の納付金は、1,056千円		
		818千円	536千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要		福岡県(設立団体)からの運営費交付金により維持する。							
既設大学等の状況	大学の名称	福岡女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	文学部	年	人	年次人	人		倍		福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号	
	国文学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和29年度		平成23年度より学生募集停止
	英文学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	昭和29年度		平成23年度より学生募集停止
	人間環境学部									
	環境理学科	4	－	－	－	学士(人間環境学)	－	平成7年度		平成23年度より学生募集停止
	栄養健康科学科	4	－	－	－	学士(人間環境学)	－	平成7年度		平成23年度より学生募集停止
	生活環境学科	4	－	－	－	学士(人間環境学)	－	平成7年度		平成23年度より学生募集停止
	国際文理学部						1.02			
	国際教養学科	4	135	－	540	学士(国際教養)	1.01	平成23年度		
	環境科学科	4	70	－	280	学士(環境科学)	1.04	平成23年度		
	食・健康学科	4	35	－	140	学士(食健康学)	1.01	平成23年度		
	文学研究科						0.26			
	国文学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	0.4	平成5年度	平成27年度より学生募集停止	
	英文学専攻									
	博士前期課程	2	5	－	10	修士(文学)	0.2	平成5年度	平成27年度より学生募集停止	
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(文学)	0.16	平成9年度		
	人間環境学研究科						0.66			
	環境理学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	0.37	平成12年度	平成27年度より学生募集停止	
栄養環境科学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	1.37	平成12年度	平成27年度より学生募集停止		
生活環境学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	0.25	平成12年度	平成27年度より学生募集停止		
附属施設の概要	該当なし									

公立大学法人福岡女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福岡女子大学				→	福岡女子大学				
国際文理学部					国際文理学部				
国際教養学科	135	—	540		国際教養学科	135	—	540	
環境科学科	70	—	280		環境科学科	70	—	280	
食・健康科学科	35	—	140		食・健康科学科	35	—	140	
計	240	—	960		計	240	—	960	
福岡女子大学大学院				→	福岡女子大学大学院				
					<u>人文社会科学研究科(M)</u>				研究科の設置(認可申請)
					<u>言語文化専攻</u>	4	—	8	
					<u>社会科学専攻</u>	4	—	8	
					<u>人間環境科学研究科(M)</u>				研究科の設置届出(本届出)
					<u>人間環境科学専攻</u>	12	—	24	
文学研究科					文学研究科				
国文学専攻(M)	5	—	10		国文学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
英文学専攻(M)	5	—	10		英文学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
英文学専攻(D)	3	—	9		英文学専攻(D)	3	—	9	
人間環境学研究科					人間環境学研究科				
環境理学専攻(M)	4	—	8		環境理学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
栄養健康科学専攻(M)	4	—	8		栄養健康科学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
生活環境学専攻(M)	4	—	8		生活環境学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
計	25		53		計	23	—	49	

専門科目	環境マネジメント領域	人間工学特論	1・2前		2		○								兼1	隔年
		環境エネルギー学特論	1・2後		2		○								兼1	隔年
		環境マネジメント科学特別講義Ⅰ(環境生活系)	1・2前		2		○								兼1	隔年
		環境マネジメント科学特別講義Ⅱ(環境政策系)	1・2前		2		○			1	3					オムニバス・共同(一部)
小計(63科目)		—	0	126	0	—			13	11	5	0	0	兼14	—	
基本科目	人間環境科学特論	1・2前	2			○			4						オムニバス	
	人間環境科学特別演習	1・2後	2			○			4							
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			4	0	0	0	0	0	—	
研究科 共通 科目	国際研究活動	1～2通		2			○			3	1				オムニバス・共同(一部)	
	国際インターンシップ	1～2通		2			○			3	1				オムニバス・共同(一部)	
	専門職特別研修	1～2通		2			○	2							オムニバス・共同(一部)	
	特別研究	1～2通	10				○	13	2							
	小計(4科目)	—	10	6	0	—			13	3	1	0	0	0	—	
合計(69科目)		—	14	132	0	—			13	12	5	0	0	兼14	—	
学位又は称号		修士(人間環境科学)			学位又は学科の分野			家政関係・理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>1) 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の研究指導の下に、所定の34単位(基本科目4単位、専門科目と研究科共通科目から20単位以上、特別研究10単位)以上を修得し、かつ修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。</p> <p>2) 基本科目および特別研究は必修であり、それ以外の授業科目は選択である。</p> <p>3) 特別演習の単位は、その関連の特論の単位を修得した者のみに認める。</p> <p>4) 入学後に決定した所属領域の専門科目を14単位以上を修得し、所属領域以外の2領域からそれぞれ2単位以上(計4単位以上)を修得すること。</p> <p>5) 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。</p>							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																
【既設】(人間環境学研究科環境理学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	無機化学特論	1・2前		2		○									兼1 隔年	
	物理化学特論	1・2前		2		○			1	1						
	分子分光化学特論	1・2前		2		○										
	分子環境化学特別演習Ⅰ	1・2後		2			○			1						
	分子環境化学特別演習Ⅱ	1・2後		2			○		1							
	環境有機化学特論	1・2前		2		○			1							
	環境反応化学特論	1・2前		2		○										兼1 隔年
	環境生物化学特論	1・2後		2		○										兼1 隔年
	環境応用化学特別演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
	環境応用化学特別演習Ⅱ	1・2後		2			○									兼1 隔年
	環境生理学特論	1・2後		2		○				1						
	発生生物学特論	1・2前		2		○				1						
	生体情報学特論	1・2前		2		○										兼1 隔年
	生体情報学特別演習Ⅰ	1・2後		2			○			1						
	生体情報学特別演習Ⅱ	1・2後		2			○			1						
	細胞機能学特論	1・2前		2		○			1							
	神経科学特論	1・2前		2		○										兼1 隔年
	環境生物学特論	1・2前		2		○			1							
	環境機能学特別演習Ⅰ	1・2後		2			○		1							
	環境機能学特別演習Ⅱ	1・2後		2			○		1							
	環境情報学特論	1・2前		2		○					1					
	環境物理学特論	1・2前		2		○				1						
	環境理学特別講義Ⅰ(物質科学)	1・2前		2		○										兼1 隔年
	環境理学特別講義Ⅱ(生命科学)	1・2後		2		○										兼1 隔年
	環境理学特別講義Ⅲ(環境科学)	1・2前		2		○										兼1 隔年
小計(25科目)		—	0	50	0			—	4	4	1	0	0	兼9	—	
特別研究	環境理学特別研究	1~2通	10					○	4							
	小計(1科目)	—	10	0	0			—	4	0	0	0	0	0	—	
研究科共通科目	人間環境学特論	1・2前		2		○			4	1					兼9 オムニバス	
	人間環境学特別演習	1・2後		2			○		2							
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	4	1	0	0	0	兼9	—	
合計(28科目)		—	10	54	0			—	4	4	1	0	0	兼18	—	
学位又は称号		修士(人間環境学)			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
1) 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の研究指導の下に、所定の30単位(専門科目、研究科共通科目から20単位以上、特別研究10単位)以上を修得し、かつ修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。 2) 環境理学特別研究は必修であり、それ以外の授業科目は選択である。 3) 特別演習の単位は、その関連の特論の単位を修得した者のみに認める。 4) 専門科目のうち、他専攻の専門科目を10単位を上限として履修することができる。 5) 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
【既設】 (人間環境学研究科栄養健康科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	栄養学特論	1・2前		2		○			1						兼1 隔年
	栄養学特別演習	1・2後		2			○		1						
	食品学特論	1・2前		2		○				1					
	食品学特別演習	1・2後		2			○			1					
	調理科学特論	1・2前		2		○				1					
	調理科学特別演習	1・2後		2			○			1					
	食品加工学特論	1・2前		2		○									
	分子医学特論	1・2前		2		○			1						
	分子医学特別演習	1・2後		2			○		1						
	生物化学特論	1・2前		2		○				1					
	生物化学特別演習	1・2前		2			○			1					
	栄養生理学特論	1・2前		2		○									
	栄養指導学特論	1・2前		2		○			1						
	栄養指導学特別演習	1・2後		2			○		1						
	人体生理学特論	1・2前		2		○			1						
	人体生理学特別演習	1・2後		2			○		1						
	食品衛生学特論	1・2前		2		○									
	臨床栄養学特論	1・2前		2		○									
	臨床栄養学特別演習	1・2後		2			○								
	栄養健康科学特別講義Ⅰ(医療分野)	1・2前		2		○									
	栄養健康科学特別講義Ⅱ(保健福祉分野)	1・2前		2		○									
	栄養健康科学特別講義Ⅲ(運動スポーツ分野)	1・2前		2		○									
臨床栄養師特別研修Ⅰ	1～2通		2		○			2	1						
臨床栄養師特別研修Ⅱ	1～2通		2		○			2	1						
臨床栄養師特別研修Ⅲ	1～2通		2		○			2	1						
小計(25科目)	—		0	50	0				4	4	0	0	0	兼7	
特別研究	栄養健康科学特別研究	1～2通	10					○	4	2					
	小計(1科目)	—	10	0	0				4	2	0	0	0	—	
研究科 共通 科目	人間環境学特論	1・2前		2		○			3	1				兼10	
	人間環境学特別演習	1・2後		2			○							兼2	
	小計(2科目)	—	0	4	0				3	1	0	0	0	兼10	
専門 関連 科目	健康管理学特論	1・2前		2		○								兼1	
	生活環境衛生学特論	1・2前		2		○								兼1	
	生活環境管理学特論	1・2前		2		○								兼1	
	住環境学特論	1・2前		2		○								兼1	
	環境生理学特論	1・2前		2		○								兼1	
	環境有機化学特論	1・2前		2		○								兼1	
	小計(6科目)	—	0	12	0				0	0	0	0	0	兼6	
合計(34科目)		—	10	66	0				4	4	0	0	0	兼18	
学位又は称号		修士(人間環境学)			学位又は学科の分野			家政関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1) 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の研究指導の下に、所定の30単位(専門科目、研究科共通科目、専門関連科目から20単位以上、特別研究10単位)以上を修得し、かつ修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。 2) 栄養健康科学特別研究は必修であり、それ以外の授業科目は選択である。 3) 臨床栄養師の資格を取得するためには、臨床栄養師特別研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位修得が必要である。 4) 特別演習の単位は、その関連の特論の単位を修得した者のみに認める。 5) 専門科目のうち、他専攻の専門科目を10単位を上限として履修することができる。 6) 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
【既設】（人間環境学研究科生活環境学専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生活材料化学特論	1・2前		2		○			1						兼1 隔年 兼1 隔年
	生活材料化学特別演習	1・2後		2			○		1						
	生活材料物性学特論	1・2前		2		○									
	生活材料物性学特別演習	1・2前		2			○								
	生活材料加工学特論	1・2前		2		○			1						
	生活材料加工学特別演習	1・2後		2			○		1						
	生活環境管理学特論	1・2前		2		○					1				
	生活環境管理学特別演習	1・2後		2			○				1				
	機能材料学特論	1・2前		2		○									
	生活環境衛生学特論	1・2前		2		○			1						
	生活環境衛生学特別演習	1・2後		2			○		1						
	住環境学特論	1・2前		2		○			1						
	住環境学特別演習	1・2後		2			○		1						
	衣服設計学特論	1・2前		2		○									
	衣服設計学特別演習	1・2後		2			○								
	生活環境リスク学特論	1・2前		2		○									
	生活環境リスク学特別演習	1・2後		2			○								
	生活環境生理学特論	1・2後		2		○									
	人間工学特論	1・2前		2		○									
	環境デザイン学特論	1・2前		2		○									
	環境エネルギー学特論	1・2後		2		○			1						
	材料学系特別講義	1・2前		2		○									
	設計学系特別講義	1・2後		2		○									
	生活環境学系特別講義Ⅰ	1・2前		2		○									
	生活環境学系特別講義Ⅱ	1・2前		2		○									
	生活環境学系特別講義Ⅲ	1・2前		2		○									
	小計（26科目）	—	0	52	0				5	0	1	0	0	兼12 —	
特別研究	生活環境学特別研究	1～2通	10					○	4						
	小計（1科目）	—	10	0	0				4	0	0	0	0	0 —	
研究科共通科目	人間環境学特論	1・2前		2		○			5	0				兼9	
	人間環境学特別演習	1・2後		2			○							兼2	
	小計（2科目）	—	0	4	0				5	0	0	0	0	兼9 —	
合計（29科目）		—	10	56	0				5	0	1	0	0	兼21 —	
学位又は称号		修士（人間環境学）			学位又は学科の分野			家政関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1) 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の研究指導の下に、所定の30単位（専門科目、研究科共通科目から20単位以上、特別研究10単位）以上を修得し、かつ修士論文の審査並びに最終試験に合格しなければならない。 2) 生活環境学特別研究は必修であり、それ以外の授業科目は選択である。 3) 特別演習の単位は、その関連の特論の単位を修得した者のみに認める。 4) 専門科目のうち、他専攻の専門科目を10単位を上限として履修することができる。 5) 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
ファーストイ ヤー・ゼミ	ファーストイヤー・ゼミⅠ	1前	1				○		10	7	4			兼49
	ファーストイヤー・ゼミⅡ	1後	1				○		10	7	4			兼49
	小計(2 科目)		2	0	0		—		10	7	4	0	0	兼49
学部共通科目 学術英語 プログラム (AEP)	学術英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼11
	学術英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○							兼12
	学術英語コミュニケーションⅢ	1後	1				○							兼13
	学術英語コミュニケーションⅣ	2前	1				○							兼15
	学術英語リスニングⅠ	1前	1				○							兼11
	学術英語リスニングⅡ	1後	1				○							兼10
	学術英語リーディングⅠ	1前	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅡ	1前	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅢ	1後	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅣ	1後	1				○							兼15
	学術英語リーディングⅤ	2前	1				○							兼16
	学術英語ライティングⅠ	1前	1				○							兼13
	学術英語ライティングⅡ	1後	1				○							兼13
	学術英語ライティングⅢ	1後	1				○							兼11
	学術英語ライティングⅣ	2前	1				○							兼16
	小計(15 科目)			15	0	0		—		0	0	0	0	0
学部共通科目 学術日本語 プログラム (AJP)	学術日本語リーディングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語リーディングⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語リーディングⅢ	2前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅡ	1前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅢ	1後			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅣ	1後			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅤ	2前			1		○							兼1
	学術日本語リスニングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語リスニングⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○							兼1
	学術日本語日本事情Ⅰ	1前			1		○							兼1
学術日本語日本事情Ⅱ	1後			1		○							兼1	
小計(15 科目)			0	0	15		—		0	0	0	0	0	兼2
アドバンスト・ イングリッシュ	英語上級Ⅰ	2・3・4後		1			○							兼3
	英語上級Ⅱ	2・3・4後		1			○							兼3
	英語上級Ⅲ	2・3・4後		1			○							兼3
	小計(3 科目)			0	3	0		—		0	0	0	0	兼5

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要															
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	中国語Ⅰ	1前		1			○								兼4
	中国語Ⅱ	1前		1			○								兼3
	中国語Ⅲ	1後		1			○								兼4
	中国語Ⅳ	1後		1			○								兼3
	中国語Ⅴ	2前		1			○								兼3
	中国語Ⅵ	2後		1			○								兼3
	韓国語Ⅰ	1前		1			○								兼1
	韓国語Ⅱ	1前		1			○								兼2
	韓国語Ⅲ	1後		1			○								兼1
	韓国語Ⅳ	1後		1			○								兼2
	韓国語Ⅴ	2前		1			○								兼2
	韓国語Ⅵ	2後		1			○								兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ	1前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅲ	1後		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅳ	1後		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅴ	2前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅵ	2後		1			○								兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1			○								兼4
	フランス語Ⅱ	1前		1			○								兼3
	フランス語Ⅲ	1後		1			○								兼3
	フランス語Ⅳ	1後		1			○								兼3
	フランス語Ⅴ	2前		1			○								兼4
	フランス語Ⅵ	2後		1			○								兼3
	英語Ⅰ	1前		1			○								兼1
	英語Ⅱ	1前		1			○								兼1
	英語Ⅲ	1後		1			○								兼1
	英語Ⅳ	1後		1			○								兼1
	小計(28 科目)		0	28	0		—			0	0	0	0	0	兼16
情報活用科目	情報インテリジェンス	1前・後	2				○					1			兼2 ※講義
	情報リテラシー	1前	2				○					1			兼2 ※講義
	小計(2 科目)		2	2	0		—			0	0	1	0	0	兼2
日本文化理解科目	日本の伝統文化	1前		2			○								兼1
	現代日本文化	1前		2			○								兼2
	福岡の文化と社会	1後		2			○								兼1
	日本女性文化	1後		2			○								兼1
	小計(4 科目)		0	8	0		—			0	0	0	0	0	兼5
語学研修科目	海外語学研修Ⅰ	1・2・3通		1			○								兼1
	海外語学研修Ⅱ	2・3・4通		1			○								兼1
	小計(2 科目)		0	2	0		—			0	0	0	0	0	兼1
体験学習科目	フィールドスタディ	1通		2					○	1					兼2
	国際インターンシップ	1・2・3・4通		2					○	1					兼2
	フィールドワーク	1・2・3・4通		2					○	1					兼2
	サービスラーニング	1・2・3・4通		2					○	1					兼2
	小計(4 科目)		0	8	0		—			1	0	0	0	0	兼2
総合科目	グローバリズムと多様性社会	1・2前		2			○			0		1			兼3 オムニバス
	地球環境と人類の未来	1・2前		2			○			2	1				兼2 オムニバス
	現代社会における生命と健康	1・2後		2			○			1	1				兼3 オムニバス
	小計(3 科目)		0	6	0		—			3	3	1	0	0	兼8
共通基盤科目	人文科学	国際文化論	1・2・3・4前	2			○								兼1
	ジェンダー	1・2・3・4前	2			○									兼1
	日本の言語と世界	1・2・3・4前	2			○									兼1
	欧米言語文化概論	1・2・3・4前	2			○									兼1
	言語とコミュニケーション	1・2・3・4後	2			○									兼1
	歴史と文化	1・2・3・4後	2			○									兼1
	人間の思索	1・2・3・4前	2			○									兼1
	宗教学	1・2・3・4後	2			○									兼1
小計(8 科目)		0	16	0		—			0	0	0	0	0	兼6	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要															
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	社会科学	ジェンダーと法	1・2・3・4後	2			○								兼1
		現代社会と法	1・2・3・4前	2			○								兼1
		日本国憲法	2・3・4前	2			○								兼1
		現代日本社会論	1・2・3・4前	2			○								兼1
		今日の東アジア社会	1・2・3・4前	2			○								兼2
		国際関係の成り立ち	1・2・3・4後	2			○								兼1
		国際経済のしくみ	1・2・3・4前	2			○								兼1
		組織運営のしくみ	1・2・3・4後	2			○								兼1
		情報と社会	1・2・3・4後	2			○								兼1
	小計(9 科目)		0	18	0	-			0	0	0	0	0	兼9	
	自然科学	持続可能社会の設計	1・2・3・4前	2			○			2		1			兼1
		人をめぐる生命科学	1・2・3・4前	2			○			0	1				兼1
		国際社会における食の安全・安心	1・2・3・4前	2			○			1					兼1
		物質と環境	1・2・3・4後	2			○			1					兼1
		物理学と現代社会	1・2・3・4後	2			○			0	1		1		兼1
小計(7 科目)		0	14	0	-			3	2	2	0	0	兼2		
芸術・感性	美術表現	1・2・3・4前	2					○						兼1 ※講義	
	造形表現	1・2・3・4後	2					○						兼1 ※講義	
	音楽表現Ⅰ	1・2・3・4前	2					○						兼1 ※講義	
	音楽表現Ⅱ	1・2・3・4後	2					○						兼1 ※講義	
小計(4 科目)		0	8	0	-			0	0	0	0	0	兼2		
健康スポーツ実習	健康スポーツ実習Ⅰ	1前	1					○						兼1	
	健康スポーツ実習Ⅱ	1後	1					○						兼1	
	小計(2 科目)		0	2	0	-			0	0	0	0	0	兼1	
学部共通専門科目	異文化理解	2・3・4前	2			○								兼1	
	国際社会とジェンダー	3後	2			○								兼1	
	国際経済学	2後	2			○			1	1				兼1	
	生活と環境	2後	2			○								兼1	
	食料経済学	2後	2			○								兼1	
	食健康論	3前	2			○								兼1	
	社会調査法	2・3前	2			○								兼1	
	フィールド実践・研究推進論Ⅰ	1・2・3・4前・後	2			○			1					兼2	
	フィールド実践・研究推進論Ⅱ	1・2・3・4前・後	2			○			1					兼2	
	女性リーダー育成実習	3後	2					○		1				兼1	
	女性リーダー育成論	3・4後	2			○				1				兼1	
	人権概論	1・2・3後	2											兼1	
小計(12 科目)		0	24	0	-			2	1	0	0	0	兼10		
学科基本科目	基礎数学	1前	2			○					1			兼1	
	基礎物理学	1前	2			○			1	1				兼1	
	基礎化学	1前	2			○			1	1				兼1	
	基礎生命科学	1前	2			○			1	1				兼1	
	生態系の生物学	1後	2			○								兼1	
	基礎統計学	1後	2			○					1			兼1	
	応用統計学	2前	2			○								兼1	
	環境科学概論	2前	2			○			3	1				兼1	
	コンピュータサイエンス	1・2・3・4通	2			○					1			兼1	
	プログラミング	2後	2			○					1			兼1	
	環境法総論	1後	2			○								兼1	
	経済学入門	1・2前	2			○								兼1	
	環境とジェンダー	2前	2			○								兼1	
小計(13 科目)		10	16	0	-			4	3	2	0	0	兼4		

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学 科 科 目	専 門 科 目	環 境 物 質 科 目	基礎物理化学	2前	2		○			1							
			応用物理化学	2後	2		○			1							
			有機化学	2前	2		○			1							
			基礎分析化学	1後	2		○			1							
			無機化学	2前	2		○			1							
			高分子化学	2後	2		○			1							
			環境物理学	3前	2		○				1						
			環境材料学	3前	2		○				1						
			環境有機化学	2後	2		○				1						
			環境分析化学	2後	2		○					1					
			大気環境科学	3前	2		○					1					
			土壌環境科学	3後	2		○								兼1		
			水質環境科学	3前	2		○								兼1		
			地球環境科学	3後	2		○								兼1		
			環境機器分析学	2後	2		○					1					
			東アジアの環境	2後	2		○					1					
			基礎物理学実験	2前	1					○		1	1				
			基礎化学実験	2前	1					○				1			
			有機化学実験	2後	1					○		1			1		
			高分子化学実験	3前	1					○		1			1		
			環境物質基礎実験	2後	1					○		1			1		
			環境分析化学実験	3前	1					○			1		1		
			機器分析学実験	3後	1					○		1			1		
			地球環境科学実験	3後	1					○					1	兼1	
			基礎物理化学演習	2後	1					○		1					
			応用物理化学演習	3前	1					○		1					
			環境科学演習	2後	1					○		1					
			環境物質論および実習 I	3前	2				○			4	2				
			環境物質論および実習 II	3後	2				○			4	2				
			小計(29 科目)			0	47	0		—		4	2	1	1	3	兼3
			学 科 科 目	環 境 生 命 科 目	遺伝子の生物学	1後	2		○								兼1
					生命の分子的基盤	2前	2		○				1				
					生体の機能学	2前	2		○				0				兼1
分子生物学	2後	2				○					1			兼1			
遺伝学	3前	2				○					1						
バイオインフォマティクス	3後	2				○					1						
細胞の生物学	1後	2				○					1						
発生生物学	3前	2				○					1						
系統進化学	3前	2				○								兼1			
動物生理学	2後	2				○				0	1						
生物統計学	2後	2				○								兼1			
環境生理学	3前	2				○				1							
生態学 I	2前	2				○				1							
生態学 II	3後	2				○								兼1			
保全生物学	3前	2				○					1						
環境評価学	2後	2				○								兼1			
生命科学演習 I	2後	1							○	1							
生命科学演習 II	3前	1							○		1						
生命科学演習 III	3前	1							○	0	1						
生命科学演習 IV	3後	1							○	1							
生命科学演習 V	3後	1					○		1								
生命科学基礎実験	2前	1					○		1			1					
発生生物学実験	3前	1					○		1			1					

※実習、オムニバス
※実習

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
学 科 科 目	環 境 生 命 科 目	動物生理学実験	3前	1				○	0	1			1		※実習、オムニバス ※実習
		生態学実験	3前	1				○	1				1		
		環境生理学実験	2後	1					1				1		
		環境生命論および実習 I	3前	2			○		2	3					
		環境生命論および実習 II	3後	2			○		2	3					
		小計(28 科目)		0	46	0		—	2	3	0	0	3	兼6	
	環 境 生 活 科 目	エコライフスタイル学	2前	2			○			1	1				兼1
		化学物質管理	2後	2			○			1					
		都市空間デザイン	3後	2			○			1		1			
		循環・廃棄物管理	2前	2			○			1					
		内空間環境工学	2前	2			○			0		1			
		環境生活学	2前	2			○					1			
		環境人間工学	3前	2			○								
		環境生活生理学	2後	2			○			1					
		環境衛生学	2前	2			○			1					
		生活環境デザイン	2後	2			○			1					
		環境リスク	2後	2			○				1				
		環境生活基礎実験	2後	1					○	1			1		
		エコ・リサイクル実験	2後	1					○	1	1		1		
		環境影響検査法	3前	1					○	1					
		環境生活演習 I	3前	1					○	1					
		環境生活演習 II	3前	1					○	1					
		環境生活演習 III	3前	1					○	1					
		環境生活演習 IV	3前	1					○		1				
		環境生活演習 V	3前	1					○			1			
		環境生活論および実習 I	3前	2				○		3	1	1			
		環境生活論および実習 II	3後	2				○		3	1	1			
	小計(21 科目)		0	34	0		—	3	1	1	0	1	兼1		
	国 際 環 境 政 策 科 目	環境法 I	2前	2			○								兼1
		環境法 II	2後	2			○								兼1
国際機構法		3前	2			○								兼1	
地域環境政策論		1後	2			○				1					
国際環境政策論		2前	2			○				1					
国際協力・NPO/NGO論		3後	2			○								兼1	
社会環境設計論		3前	2			○					1				
環境統計学		3前	2			○					1			※演習	
環境数理学		2後	2			○					1				
環境(負荷)評価		3後	2			○				1				兼1	
ミクロ経済学 I		2前	2			○								兼1	
環境経済学		2後	2			○					1				
国際環境経済論		3前	2			○					1				
環境ビジネス		3前	2			○								兼1	
環境会計論		2前	2			○								兼1	
企業経営と環境		2後	2			○								兼1	
環境影響論		3後	2			○						1			
環境マネジメント演習 I		2前	1					○			1	1			
環境マネジメント演習 II		2後	1					○			1	1			
環境マネジメント演習 III		3前	1					○		1					
環境マネジメント演習 IV		3前	1					○			1				
環境マネジメント特別講義 I		3後	2				○		1						
環境マネジメント特別講義 II		3後	2				○				1				
環境マネジメント特別講義 III		3後	2				○			1					
国際環境政策論および実習 I		3前	2				○			1	3				
国際環境政策論および実習 II		3後	2				○			1	3				
小計(26 科目)		0	48	0		—	1	1	3	0	0	兼8			

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)																
科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科科目	専門科目	関連科目	東アジアの歴史	2前		2		○								兼1
			国際開発論	2後		2		○								兼1
			アジアの現代文化	2後		2		○								兼1
			東アジアの法と社会	2後		2		○								兼1
	小計(4 科目)					0	8	0	-			0	0	0	0	0
学科科目	卒業研究	卒業研究演習	4通		4				○		9	7	4			
		卒業論文	4通		4				○		9	7	4			
		小計(2 科目)					8	0	0	-			9	7	4	0
教職科目			教職基礎論	1後			2	○								兼1
			教育原理	3前			2	○								兼1
			教育心理学	2前			2	○								兼1
			教育行政学	2後			2	○								兼1
			教育課程論	2前			2	○								兼1
			理科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼1
			理科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼1
			理科教育法Ⅲ	3後			2	○								兼1
			理科教育法Ⅳ	3後			2	○								兼1
			道徳教育の指導	3後			2	○								兼1
			特別活動の指導	3後			2	○								兼1
			教育方法学	2後			2	○								兼1
			生徒指導論	3前			2	○								兼1
			教育相談論	3後			2	○								兼1
			教職実践演習(中・高)	4後			2			○						兼2
			事前・事後指導	4通			1	○								兼3
			中学校教育実習	2前			2									兼2
			高等学校教育実習	4前			2									兼3
			学校経営と学校図書館	3・4後			2	○								兼1
			学校図書館メディアの構成	3・4前			2	○								兼1
			学習指導と学校図書館	3・4前			2	○								兼1
			読書と豊かな人間性	3・4前			2	○								兼1
			情報メディアの活用	3・4後			2	○								兼1
小計(23 科目)					0	0	45	-			0	0	0	0	0	兼9
合計(266 科目)					37	336	60	-			9	7	4	1	4	兼124
学位又は称号			学士(環境科学)			学位又は学科の分野			理学関係							

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
【基礎となる学部】(国際文理学部 環境科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等										
(卒業要件)以下の単位を含んで、124単位以上修得すること。 ◇学部共通科目:41単位以上 ○ファーストイヤー・ゼミ:2単位必修 ○学術言語プログラム:15単位必修(日本語を母国語としない学生は、学術英語プログラムに代えて、学術日本語プログラムを履修することができる) ○外国語科目:日本語を母国語とする学生は、英語Ⅰ～Ⅳを履修しても卒業要件単位に含めない。外国人留学生が外国語科目を選択する場合は、母国語以外の言語を履修すること。 ○情報活用科目:2単位必修 ○日本文化理解科目:2単位以上選択(国際教養学科開講科目の「日本史概論」、「儒教思想史」、「書道Ⅰ(書道芸術)」、「美学美術史」からも選択することができる) ○共通基盤科目:20単位以上選択(総合科目:2単位以上選択、人文科学:4単位以上選択、社会科学:4単位以上選択、自然科学:2単位以上選択) ◇学部共通専門科目:6単位以上 ◇学科科目:60単位以上 ○学科基本科目:10単位必修 ○専門科目:42単位以上選択 うち28単位以上は、「環境物質科目」、「環境生命科目」、「環境生活科目」、「国際環境政策科目」のいずれか同一の科目区分からその指定された必修科目(注)16単位を含んで履修するものとする。さらに、当該科目区分以外の3科目区分からそれぞれ4単位以上履修するものとする。 「関連科目」から2単位以上選択 (注) 科目区分から指定された必修科目 ・「環境物質科目」:「有機化学」、「基礎分析化学」、「無機化学」、「高分子化学」、「環境分析化学」、「基礎化学実験」、「環境物質基礎実験」、「環境物質論及び実習Ⅰ」、「環境物質論及び実習Ⅱ」 ・「環境生命科目」:「遺伝子の生物学」、「生命の分子的基盤」、「生体の機能学」、「細胞の生物学」、「生命科学基礎実験」、「発生生物学実験」、「動物生理学実験」、「生態学実験」、「環境生命論及び実習Ⅰ」、「環境生命論及び実習Ⅱ」 ・「環境生活科目」:「エコライフスタイル学」、「循環・廃棄物管理」、「内空間環境工学」、「環境生活学」、「環境衛生学」、「生活環境デザイン」、「環境生活論及び実習Ⅰ」、「環境生活論及び実習Ⅱ」 ・「国際環境政策科目」:「環境法Ⅰ」、「地域環境政策論」、「国際環境政策論」、「環境統計学」、「環境経済学」、「環境会計論」、「国際環境政策論及び実習Ⅰ」、「国際環境政策論及び実習Ⅱ」 ○卒業研究:8単位必修 ただし、卒業研究は専門科目の「環境物質科目」、「環境生命科目」、「環境生活科目」、「国際環境政策科目」のうち、履修要件を満たした科目区分において行う。 ◇学部共通科目及び学部共通専門科目並びに他学科を含む学科科目(食・健康学科が指定する科目を除く)から選択履修:17単位以上 ※履修科目の登録の上限(年間):45単位(「教職科目」等を除く。なお、教授会が認めた場合には上限を超えて履修することができる。)						1学年の学期区分						2 学期				
						1学期の授業期間						15 週				
						1時限の授業時間						90 分				

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
【基礎となる学部】(国際文理学部 食・健康学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
ファーストイ ヤー・ゼミ	ファーストイヤー・ゼミⅠ	1前	1				○		6	6	1			兼55
	ファーストイヤー・ゼミⅡ	1後	1				○		6	6	1			兼55
	小計(2科目)		2	0	0		—		6	6	1	0	0	兼55
学術英語 プログラム (AEP)	学術英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○							兼11
	学術英語コミュニケーションⅡ	1前	1				○							兼12
	学術英語コミュニケーションⅢ	1後	1				○							兼13
	学術英語コミュニケーションⅣ	2前	1				○							兼15
	学術英語リスニングⅠ	1前	1				○							兼11
	学術英語リスニングⅡ	1後	1				○							兼10
	学術英語リーディングⅠ	1前	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅡ	1前	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅢ	1後	1				○							兼14
	学術英語リーディングⅣ	1後	1				○							兼15
	学術英語リーディングⅤ	2前	1				○							兼16
	学術英語ライティングⅠ	1前	1				○							兼13
	学術英語ライティングⅡ	1後	1				○							兼13
	学術英語ライティングⅢ	1後	1				○							兼11
	学術英語ライティングⅣ	2前	1				○							兼16
	小計(15科目)		15	0	0		—		0	0	0	0	0	兼34
学術日本語 プログラム (AJP)	学術日本語リーディングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語リーディングⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語リーディングⅢ	2前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅡ	1前			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅢ	1後			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅣ	1後			1		○							兼1
	学術日本語ライティングⅤ	2前			1		○							兼1
	学術日本語リスニングⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語リスニングⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅠ	1前			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅡ	1後			1		○							兼1
	学術日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○							兼1
	学術日本語日本事情Ⅰ	1前			1		○							兼1
	学術日本語日本事情Ⅱ	1後			1		○							兼1
	小計(15科目)		0	0	15		—		0	0	0	0	0	兼3
アドバンス ト・イン グリッシ ュ	英語上級Ⅰ	2・3・4後		1			○							兼3
	英語上級Ⅱ	2・3・4後		1			○							兼3
	英語上級Ⅲ	2・3・4後		1			○							兼4
	小計(3科目)		0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼6
外国語 科目	中国語Ⅰ	1前	1				○							兼4
	中国語Ⅱ	1前	1				○							兼3
	中国語Ⅲ	1後	1				○							兼4
	中国語Ⅳ	1後	1				○							兼3
	中国語Ⅴ	2前	1				○							兼3
	中国語Ⅵ	2後	1				○							兼3
	韓国語Ⅰ	1前	1				○							兼1
	韓国語Ⅱ	1前	1				○							兼2
	韓国語Ⅲ	1後	1				○							兼1
	韓国語Ⅳ	1後	1				○							兼2
	韓国語Ⅴ	2前	1				○							兼2
	韓国語Ⅵ	2後	1				○							兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前	1				○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1前	1				○							兼1
	ドイツ語Ⅲ	1後	1				○							兼1
	ドイツ語Ⅳ	1後	1				○							兼1
	ドイツ語Ⅴ	2前	1				○							兼1
	ドイツ語Ⅵ	2後	1				○							兼1
	フランス語Ⅰ	1前	1				○							兼4
	フランス語Ⅱ	1前	1				○							兼3
	フランス語Ⅲ	1後	1				○							兼3
	フランス語Ⅳ	1後	1				○							兼3
	フランス語Ⅴ	2前	1				○							兼4
	フランス語Ⅵ	2後	1				○							兼3
	英語Ⅰ	1前	1				○							兼1
	英語Ⅱ	1前	1				○							兼1
	英語Ⅲ	1後	1				○							兼1
	英語Ⅳ	1後	1				○							兼1
	小計(28科目)		0	28	0		—		0	0	0	0	0	兼16
情報活用 科目	情報インテリジェンス	1前・後	2				○							兼3 ※講義
	情報リテラシー	1前		2			○							兼3 ※講義
	小計(2科目)		2	2	0		—		0	0	0	0	0	兼3

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
【基礎となる学部】(国際文学部 食・健康学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部 共通科目	日本文化理解科目	日本の伝統文化	1前		2		○								兼1	
		現代日本文化	1前		2		○								兼2	
		福岡の文化と社会	1後		2		○								兼1	
		日本女性文化	1後		2		○								兼1	
		小計(4 科目)		0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
	語学研修科目	海外語学研修Ⅰ	1・2・3通		1			○							兼1	
		海外語学研修Ⅱ	2・3・4通		1			○							兼1	
		小計(2 科目)		0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	体験学習科目	フィールドスタディ	1通		2				○			1			兼2	
		国際インターンシップ	1・2・3・4通		2				○			1			兼2	
		フィールドワーク	1・2・3・4通		2				○			1			兼2	
		サービスラーニング	1・2・3・4通		2				○			1			兼2	
		小計(4 科目)		0	8	0	—			0	4	0	0	0	兼2	
	共通 基盤科目	総合科目	グローバル化と多様性社会	1・2前		2		○								兼4
			地球環境と人類の未来	1・2前		2		○								兼5
			現代社会における生命と健康	1・2後		2		○								兼5
			小計(3 科目)		0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼14
		人文科学	国際文化論	1・2・3・4前		2		○								兼1
			ジェンダー	1・2・3・4前		2		○								兼1
			日本の言語と世界	1・2・3・4前		2		○								兼1
欧米言語文化概論			1・2・3・4前		2		○								兼1	
言語とコミュニケーション			1・2・3・4後		2		○								兼1	
歴史と文化			1・2・3・4後		2		○								兼1	
人間の思索			1・2・3・4前		2		○								兼1	
宗教学			1・2・3・4後		2		○								兼1	
小計(8 科目)			0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼6		
社会科学		ジェンダーと法	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		現代社会と法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本国憲法	2・3・4前		2		○								兼1		
	現代日本社会論	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	今日の東アジア社会	1・2・3・4前		2		○								兼2		
	国際関係の成り立ち	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	国際経済のしくみ	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	組織運営のしくみ	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	情報と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	小計(9 科目)		0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼9		
自然科学	持続可能社会の設計	1・2・3・4前		2		○								兼2		
	人をめぐる生命科学	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	国際社会における食の安全・安心	1・2・3・4前		2		○				1				兼1		
	物質と環境	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	物理学と現代社会	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	数理学と現代社会	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	科学論	1・2・3・4後		2		○								兼1		
小計(7 科目)		0	14	0	—			0	0	1	0	0	兼7			
芸術・感性	美術表現	1・2・3・4前		2				○						兼1		
	造形表現	1・2・3・4後		2				○						兼1		
	音楽表現Ⅰ	1・2・3・4前		2				○						兼1		
	音楽表現Ⅱ	1・2・3・4後		2				○						兼1		
小計(4 科目)		0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼2			
健康スポーツ 実習	健康スポーツ実習Ⅰ	1前		1				○		1				兼1		
	健康スポーツ実習Ⅱ	1後		1				○		1				兼1		
	小計(2 科目)		0	2	0	—			1	0	0	0	0	兼1		
学部 共通 専門 科目	異文化理解	2・3・4前		2		○								兼1		
	国際社会とジェンダー	3後		2		○								兼1		
	国際経済学	2後		2		○								兼1		
	生活と環境	2後		2		○								兼2		
	食料経済学	2後		2		○								兼2		
	食健康論	2後		2		○								兼3		
	社会調査法	2・3前		2		○			1					兼1		
	フィールド実践・研究推進論Ⅰ	1・2・3・4前・後		2		○					1			兼2		
	フィールド実践・研究推進論Ⅱ	1・2・3・4前・後		2		○					1			兼2		
	女性リーダー育成実習	3後		2				○						兼2		
	女性リーダー育成論	3・4後		2		○								兼2		
	人権概論	1・2・3後		2				○						兼1		
小計(12 科目)		0	24	0	—			1	2	0	0	0	兼12			

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
【基礎となる学部】(国際文学部 食・健康学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科基本科目	調理学	1前		2		○									
	調理学基礎実習	1後		1				○						1	
	生化学Ⅰ	1前		2		○			1						
	生化学Ⅱ	1後		2		○			1						
	基礎実験	1前		1				○							
	基礎化学	1前		2		○				1					
	化学	1前		2		○									
	基礎生命科学	1前		2		○									
	基礎数学	1前		2		○									
	基礎統計学	1後		2		○									
	応用統計学	2前		2		○									
	英文講読	3前		2		○					1				
小計(12 科目)			0	22	0	—			1	3	0	0	1	兼6	
グローバル社会の食と健康	保健医療福祉論	1前		2		○									
	実践栄養活動論	1前		2		○			1						
	国際食文化論	1前		2		○				1					
	栄養マネジメント論	2後		2		○				1					
	公衆栄養学	3前		2		○				1					
	公衆栄養学実習	3前		1				○		1				1	
	公衆栄養学臨地実習	3後		1				○		1				1	
	国際健康栄養科学	2前		2		○					1				
	実践疫学	2後		2		○				1	1				
	地域ブランド論	3前		2		○					1				
	食物危機管理論	3後		2		○					1				
	公衆衛生学	2前		2		○				1					兼1
公衆衛生学実習	3後		1				○						1	兼1	
小計(13 科目)			0	23	0	—			3	2	0	0	1	兼3	
人間の体と心の健康	生化学実験	1後		1				○		1				1	
	基礎栄養学実験	2前		1				○		1				1	
	人間構造機能学Ⅰ	1後		2		○				1					
	人間構造機能学Ⅱ	2前		2		○				1					
	人間構造機能学実験Ⅰ	2前		1				○		1				1	
	人間構造機能学実験Ⅱ	2後		1				○		1				1	
	臨床医学論	2後		2		○									兼1
	栄養生理学	2後		2		○					1				
	栄養生理学実習	2後		1				○			1				1
	分子生物学	2後		2		○									兼1
小計(10 科目)			0	15	0	—			2	1	0	0	2	兼2	
保健・医療・福祉・介護における食と健康	基礎栄養学	1後		2		○				1					
	生物物理・統計論	1後		2		○					1				
	食行動科学理論	1後		2		○				1					
	食事摂取基準論	2前		2		○				1					
	栄養教育論	2前		2		○				1					
	栄養教育論実習	2後		1				○		1				1	
	ライフステージ栄養学	2後		2		○									兼1
	ライフステージ栄養学実習	2後		1				○		1				1	
	栄養カウンセリング論	2後		2		○									兼1
	スポーツ栄養学	3後		2		○									兼1
	臨床栄養管理学	2後		2		○					1				
	臨床栄養管理学実習	3前		1				○			1			1	
	研究解析論	3後		2		○					1				
	臨床薬理学	3前		2		○									兼1
	臨地実習事前・事後指導	3通		1				○		2	2				
	食事療法学	3前		2		○					1				
	食事療法学実習	3後		1				○			1			1	
	病態栄養学	3前		2		○									兼1
栄養治療学	3後		2		○									兼1	
臨床栄養アセスメント	3前		2		○					1					
臨床栄養臨地実習	3後		2				○			2			1		
小計(21 科目)			0	37	0	—			3	3	0	0	2	兼4	

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
【基礎となる学部】(国際文学部 食・健康学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 科 科 目	食の安全・安心と機能	微生物学	1後		2		○								
		微生物学実験	2前		1				○					1	
		食品安全学	2前		2		○							1	
		食品安全学実験	2後		1				○					1	
		バイオテクノロジー論	3後		2		○						1		
		食品機能学	1後		2		○				1				
		食品機能学実験	2前		1				○		1				1
		食品加工・貯蔵学	2後		2		○				1				
		食品分析化学	3前		2		○				1				
		食品分析化学実験	3前		1				○		1				1
		給食経営管理論Ⅰ	2前		2		○				1				
		給食経営管理論Ⅱ	2後		2		○				1				
		給食経営管理実習Ⅰ	3前		1				○		1				1
		給食経営管理実習Ⅱ	3前		1				○		1				1
		給食の運営(校外実習)	3前		1				○		1				1
		調理学応用実習	2前		1				○		1				1
		調理科学	2後		2		○				1				
		調理科学実験	3前		1				○		1				1
		食経営管理論	3後		2		○				1				
	小計(19 科目)				0	29	0	-			1	4	1	0	5
演習科目	食・健康科学基礎演習	3後		1				○		6	6	1			
	食・健康科学総合演習	3後		1				○		6	6	1			
	小計(2 科目)				2	0	0	-			6	6	1	0	0
卒業研究	卒業研究演習	4通		4				○		5	6	1			
	卒業論文	4通		4				○		5	6	1			
	小計(2 科目)				8	0	0	-			5	6	1	0	0
教 職 科 目	教職基礎論	1後			2	○									兼1
	教育原理	3前			2	○									兼1
	教育心理学	2前			2	○									兼1
	教育行政学	2後			2	○									兼1
	教育課程論	2前			2	○									兼1
	学校栄養教育法Ⅰ	2前			2	○									兼1
	学校栄養教育法Ⅱ	2後			2	○				2	1				オムニバス
	道德教育の指導	3後			2	○									兼1
	特別活動の指導	3後			2	○									兼1
	教育方法学	2後			2	○									兼1
	生徒指導論	3前			2	○									兼1
	教育相談論	3後			2	○									兼1
	教職実践演習(栄養教諭)	4後			2			○		1					
	栄養教諭教育実習事前・事後指導	3前			1				○	1					
	栄養教諭教育実習	3後			1				○	1					
小計(15 科目)				0	0	28	-			2	1	0	0	0	兼5
合計(214 科目)				29	265	43	-			6	6	1	0	5	兼123
学位又は称号		学士(食健康学)			学位又は学科の分野			家政学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(卒業要件)以下の単位を含んで、124単位以上修得すること。 ◇学部共通科目:41単位以上 ○ファーストイヤー・ゼミ:2単位必修 ○学術言語プログラム:15単位必修(日本語を母国語としない学生は、学術英語プログラムに代えて学術日本語プログラムを履修することができる) ○外国語科目:日本語を母国語とする学生は、英語Ⅰ～Ⅳを履修しても卒業要件単位に含めない。外国人留学生が外国語科目を選択する場合は、母国語以外の言語を履修すること。 ○情報活用科目:2単位必修 ○日本文化理解科目:2単位以上選択(国際教養学科開講科目の「日本史概論」、「儒教思想史」、「書道Ⅰ(書道芸術)」、「美学美術史」からも選択することができる) ○共通基盤科目:20単位以上選択(総合科目:2単位以上選択、人文科学:4単位以上選択、社会科学:4単位以上選択、自然科学:2単位以上選択) ◇学部共通専門科目:6単位以上 ◇学科科目:52単位以上 ○学科基本科目:4単位以上選択 ○専門科目:2単位必修、38単位以上選択 ○卒業研究:8単位必修 ◇学部共通科目及び学部共通専門科目並びに他学科を含む学科科目から選択履修:25単位以上 ※履修科目の登録の上限(年間):45単位(「教職科目」等を除く。なお、教授会が認めた場合には上限を超えて履修することができる。)								1学年の学期区分			2 学期				
								1学期の授業期間			15 週				
								1時限の授業時間			90 分				

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境 専門 科学 領域	無機化学特論	人間とその環境に影響する環境問題、特に大気環境問題に見られる化学反応機構について化学理論を通じて理解する。さらに極微量の環境汚染物質の化学分析の基礎と最近新しく発達した各種分析手法を紹介するとともに微量元素や同位体の測定を通して、環境汚染物質の挙動およびその時空間分布を把握する。 環境と社会に興味を持ち、身近な生活環境から地球環境まで広範囲な分野を視野に入れさまざまな環境問題に対処するための総合的専門知識・幅広い応用能力・国際的な競争力を持った技術者・研究者の育成を目指す。	
	物理化学特論	自然環境に存在する物質の状態あるいは化学変化について、その変化が系および系を構成する分子のエネルギー状態と、どのように関係しているかを定量的に理解するために必要な熱力学および統計熱力学の理論について学習する。さらに、溶液あるいは溶液表面に関する熱力学的な取り扱いについて学習し、導かれる種々の理論等を用いて、自然環境や生活環境で生じる種々の現象(相分離、核形成、吸着、配向分子集合体形成など)について考究する。	
	環境物理学特論	環境に関わる自然現象を取り扱うとき、まず基本的な性質を捉えるのに、物理学的な解析は欠かせないが、一方でエネルギーや物質の流れ等に関する取り扱いを中心に物理学での多岐にわたる理論を組み合わせて考察する必要がある。ここでは、熱力学、光、波動、流体などを中心に、宇宙空間の中での地球におけるエネルギーの流れ、エネルギー効率、汚染物質の拡散、騒音と人間の感受性の関係等のテーマを取り上げて、物理学の基礎理論をどのように用いるかを説明する。	
	分子分光光学特論	光が環境、エネルギー、情報分野でますます重要な役割を果たすことは明白である。本講義では、環境・エネルギーに主眼を置き、(1)光とエネルギー・環境、(2)光と分子・物質との相互作用、(3)光と電気化学(光電池や光触媒)、(4)環境・エネルギー・ナノテク分野における先端の応用研究例などについて概説する。	隔年
	環境自然科学特別演習 I	自然環境に様々な影響を及ぼす化学物質を対象として、その物質の分子構造と環境における挙動や影響の相関を解明する研究手法を、研究論文を輪読して具体的な研究例をもとに、基礎理論や新しい分析技術を含めて学習する。 (10 池田宜弘) 物理化学的な手法を用いて、環境中における分子の状態変化や化学反応を研究する研究手法を学習する。 (15 黒木昌一) 分子のミクロな性質をもとに環境への影響評価を理解するために、統計力学的な手法を用いた研究手法を学習する。 (19 馬昌珍) 環境化学的な立場から、環境における種々の汚染物質の影響を解析した研究例をもとに、環境における物質の影響評価を研究する研究手法を学習する。	
	環境有機化学特論	自然環境や生体内で機能している様々な有機化合物の分子構造や物性を分子軌道理論や有機電子論などを用いて理解し、その化合物の関係する化学反応を反応機構や反応速度を含めて総合的に論じる。またこれら有機化合物の構造決定法や物性の測定方法、反応機構などの研究方法についても説明する。さらにダイオキシンのような芳香族塩素化合物や農薬として使われる有機リン酸化合物などの環境汚染有機物質の微量分析手段やその地球環境への化学的影響などについて考究する。	
	環境反応化学特論	現在、世界で起こっている環境問題はエネルギー生産・問題と密接に関わっている。本講義では原子が持つ莫大なエネルギーの本質、素晴らしさから、原子力がもたらす負の側面、放射性核種の生成とその影響、放射性核種の処分、さらに核種を原子分解能でみるための方法、放射性核種の環境中における挙動までを詳細に解説する。	隔年
	環境生物化学特論	生活環境を取り巻く人工的事象が、生体にどのような影響を及ぼすかを生物学的あるいは化学的立場から考査する。項目として、①オゾン層の破壊、②核廃棄物、③ダイオキシンなどを取り上げ、その発生形態と影響物質によって生体内に誘発される非生理的反応について、組織・細胞レベルで論ずる。	隔年
	生活材料加工学特論	持続型社会形成のためにエネルギーの合理的な利用システムを構築していく必要がある。我々が利用しているエネルギーのための社会インフラは巨大で、その変革には資本と時間を要する。サステナブルな社会を構築するために化石エネルギー、原子力、自然エネルギーの特質を理解したうえで、自然エネルギー主体の社会へと移行するために、どのような方針のもとに進めていけばよいかを、地政学的な環境を踏まえて考察していく。	
生活材料化学特論	各種生活材料の中でプラスチック、繊維、フィルムなどの高分子材料に焦点を当て、各種特性、機能と共に環境に及ぼす影響について理解を深める。生活環境の種々の問題を解決する高度な専門的知識を得る。本講義を通じて、高分子材料の研究者、技術者として活躍する際に最低限必要な知識を取得し、各分野で専門的に活躍するための基礎を固める。		

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境 専 門 科 学 領 域	環境自然科学特別演習Ⅱ	<p>生活環境や生命現象に関連した化学物質を対象として、特殊な機能を有する物質の評価や合成に関する研究の手法について、研究論文を輪読して具体的な研究例をもとに学習する。</p> <p>(1 佐藤一紀) 生命現象に影響を及ぼすペプチド毒等の化学物質の構造解明、影響評価及び合成法に関する研究手法を学習する。</p> <p>(7 藤岡祐一) 持続型社会形成のためのエネルギーシステムを構築するために必要な機能性材料の利用および加工に関する研究手法を学習する。</p> <p>(11 吉村利夫) 生活高分子材料の機能解明や影響評価に関する研究手法を学習する。</p>	
	細胞機能学特論	<p>植物において、有機物合成とエネルギー生産をうけもつ光合成の反応の場となっている葉緑体の構造と機能を中心に様々な角度からながめる。特に、1) 光エネルギーを化学エネルギーに変換する機構、2) クロロフィルや金属等のコファクターをもつ巨大タンパク質複合体の機能とその生合成、3) 光などの情報が受容され伝達される機構、4) 葉緑体と液胞やミトコンドリアといった他のオルガネラとの物質や情報の交換・伝達機構などについて、生化学的あるいは生物物理学的な側面から考察する。</p>	
	環境生理学特論	<p>動物の行動や臓器のはたらきは、神経系の働きによって統御されている。本特論では、1) 種々の動物が示す行動の多様性と臓器機能の合理的な制御、2) 行動や臓器機能制御の基盤となる神経ネットワーク、3) 神経機能に資する分子の働き、といった3つの異なる階層を横断的に俯瞰することで、神経系の成り立ちと役割を総合的に理解することを目標とする。また、神経科学研究における最新の研究動向について、英文資料の講読を交えながら知見を深めることも目指す。</p>	
	発生生物学特論	<p>近年、脊椎動物の形態形成について形態形成遺伝子による制御のメカニズムが明らかになってきた。本特論では、両生類のアフリカツメガエルの研究を中心に、魚類のゼブラフィッシュ、哺乳類のマウスなどの形態形成の分子メカニズムを紹介する。また、ショウジョウバエや線虫などの無脊椎動物の形態形成との比較をおこない、形態形成の機構が進化的に如何に保存されてきたか、また、動物によってどのように異なっているかについての考察を行う。</p>	
	環境自然科学特別演習Ⅲ	<p>細胞機能学特論・発生生物学特論・環境生理学特論に関する学術論文(総説を含む)の講読、発表を通じて、生物の機能を分子・細胞・組織・個体レベルで理解し、各自の研究の進め方や手法についても習得する。</p> <p>(6 田村典明) 光合成の反応の場となっている葉緑体の構造と機能を中心として、植物の生理に関する研究手法を習得する。</p> <p>(14 弓削昌弘) 動物の形態形成と密接な関わりをもつ細胞間および細胞内での情報伝達経路と遺伝子のカスケードに関する研究手法等を修得する。</p> <p>(25 松尾亮太) 学習や感覚情報処理などの高次神経機能に関する分子・細胞・組織レベルでの研究手法等を修得する。</p>	
	進化遺伝学特論	<p>生物多様性とはマクロレベルからミクロレベルという階層構造からなる概念であり、それは生物進化の産物に他ならない。本特論では、突然変異と多様性、遺伝的浮動、自然選択、集団構造、分子進化などについて概説し、生物多様性のうち最もミクロな階層に位置する遺伝子の多様性の観点から生物進化の仕組みについて理解することを目指す。また、進化遺伝学の研究手法や知見についても概説し、それらが進化学以外の学問分野のみならず、身近な話題とも関連していることも理解する。</p>	
	環境生物学特論	<p>産業革命以後の人間の活動によりもたらされた環境の劣化ならびに生物資源の減少を、生物学・生態学的に修復する方法を学ぶ。そのために1) 食糧資源や水資源(仮想水)の現状の確認、2) 生物多様性、自然資本や生態系サービスの価値の確認、3) 微生物や大型生物を用いた金属・化学物質汚染の修復法、4) 水生生態系や陸上生態系における生態工学的修復法などについて理解する。授業を通じて、社会における事象を生態学的思考によって把握し、生態工学的手法を用いて対策を講じられる姿勢を習得する。</p>	
	環境自然科学特別演習Ⅳ	<p>生態学および集団遺伝学の観点から、生物多様性の評価方法や環境の保全・修復方法について学ぶ。とくに環境生物学特論および進化遺伝学特論の講義を補完する形で、英語の原著論文の講読と討論を中心にこの演習を行い、論文の読み方、研究の進め方を学び、科学的思考の方法を修得する。</p> <p>(2 山田真知子) 英文の文献調査を行うとともに環境修復が実施された現場の視察を行い、修復方法を評価し環境保全を考察する。</p> <p>(21 猪股伸幸) 生物多様性を分子進化の観点から捉えた英語の原著論文の講読し、進化遺伝学の研究手法を習得する。</p>	

授業科目の概要				
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
環境自然科学領域	生体情報学特論	神経系における神経情報、内分泌系におけるホルモン情報、発生過程に見られる位置情報、形質を次世代に伝える遺伝情報など、生物の活動を情報という概念を通して考えることができる。さらに、進化という概念を取り入れると、生物の活動における情報に「意味」を考えることもできる。また、現在の生物科学の研究において、ここにとり上げたような「情報」システムは、細胞・分子（遺伝子）のレベルでの解析が進められつつある。この特論では、そのような研究の現状を概観してゆきながら、情報という概念を通して生物の示す諸現象を総合的にとらえることを試みる。	隔年	
	環境自然科学特別講義Ⅰ（物質系）	我々の身の回りの環境について興味を持ち、さらに国境を越えた大気汚染あるいは地球規模の気候変動まで、環境問題について学ぶためには、微視的で客観的な科学の視線とともに、国際感覚を身に着ける必要がある。さらに、環境の問題はエネルギーや食糧の問題と密接に関連している。そして、現状の環境問題だけを論ずる以上に、100年後200年後に安全で安心して生活できる環境を準備する必要がある。講義では、環境問題、エネルギー問題、食糧問題を概説し、それぞれの関係について、具体例（マレーシアでのバイオディーゼル油生成等）をもとに考察する。	隔年	
	環境自然科学特別講義Ⅱ（生命系）	生命体は、周りの環境から様々な情報を得て、環境に生きている。本講義では、光・ホルモンあるいはホルモン様物質・電気シグナル・温度などの外部シグナルを生命体がどのように認識し、それらに適応するかを、生命体を構成する生体高分子・オルガネラ・細胞・組織といった各階層で理解する。また、環境の中で、生命を維持するためにはどのような機構が普遍的に存在するかを学ぶ。	隔年	
専門科目	栄養健康科学領域	栄養学特論	日本人の平均寿命は世界一となり、それに伴う高齢化社会を健康で長生きするための方策を与えてくれる栄養学は、長寿社会においてなくてはならない学問の一つである。栄養学が食品成分と生体との相互作用に関する科学であることから、食品や栄養製品が持つ様々な栄養効果を生体と関連させて、新知見を加えながら解説する。 さらに、現状では生活習慣病を始めとした過剰摂取による栄養学が疾病と密接に関連していることから、過剰摂取による栄養学を学んでいく。一方では、臨床現場にみられるように栄養素の摂取不足も疾病治療に大きな影響をもたらす。そこで、栄養不足やその予防目的の各種栄養製品の解説及び効果検証にも言及していく。	
		栄養学特別演習	各栄養素のうち、脂質は高脂血症、動脈硬化症、肥満、脂肪肝などの生活習慣病の原因にもつともなりやすい。高齢化社会に適応するために、これら疾病を栄養学的に予防することは、極めて重要である。脂質のうち、高度不飽和脂肪酸は非常に酸化されやすく、その結果、活性酸素を大量に生じ、これが老化、ガン、動脈硬化等の原因になりやすいといわれている。高度不飽和脂肪酸と活性酸素の成分の関係や、活性酸素を生じさせない食物成分の利用法などの文献を受講生に読ませて解説させ、議論する。	
		食品学特論	食品学では、食品の二次機能（おいしさ）および三次機能（生体調節機能）を中心として、各成分が食品および生体内でどのような動態で存在し、その機能を発現しているのかを分子レベルで理解することが必要となっている。本講義では、個々の食品成分特性について基礎的知見を学んだ後、食品の「おいしさ」すなわち、色・味・香りに関わる成分に関する最新の知見を学ぶとともに、抗酸化活性、血圧低下、整腸作用、ミネラル吸収促進等様々な三次機能成分について、その機能発現メカニズムを含む詳細を理解することを目標とする。	
		食品学特別演習	食品学では、食品の二次機能（おいしさ）および三次機能（生体調節機能）を中心として、各成分が食品および生体内でどのような動態で存在し、その機能を発現しているのかを分子レベルで理解することが必要となっている。この現状を踏まえ、本演習では、食品の二次・三次機能に関する国内外の最新の論文情報を収集し、その知見に関して発表・相互討論することにより、相互理解を深める。一連の演習では、食品機能の評価法についても深く学び、食品機能に関する基礎的・応用的知識を総合的に修得する。	
		調理科学特論	調理科学は人に「おいしさ」を通じて貢献することを目的としている。その目的を達成するためには、まず「おいしい」と感じる事がどのようなことであるか知る必要がある。ここでは、人が「おいしい」と感じるしくみについて、多様な側面から学ぶ。また「おいしく食べる」を実践するためには、様々な調理条件や食品の調理性について知る必要があるため、これについても学んでいく。さらに、現在は食品の新しい調理性を開発することが求められているため、具体的な例を挙げながら論ずる。また、官能検査など食物の評価法についても学ぶ。	
		調理科学特別演習	調理科学の知識は、調理科学特論で学んでいくが、ここではさらに調理科学に関する学術論文などを読み、知識を深める。特に英語で書かれた学術論文、総説なども読んで、日本だけではなく世界の状況についても広く知る。それとともに、研究に必要な論文を読む能力を養い、論文を英語で書くための基礎的な知識を身につける。また、各自、調理科学についてのテーマを選び、学術論文を読むとともに関連事項についても調べ、発表を行う。	

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 学 領 域	生物化学特論	生体の機能について化学や栄養化学あるいは物理学の立場から講義する。特に、脂質、食物繊維、アミノ酸やペプチドなどの食品成分あるいは食品添加物の体内動態や作用機序等について取り上げ、医学、薬学、栄養学等の分野での応用についても解説する。また、ボディサイズと代謝や維持エネルギーの関係についても生化学や生理学の観点から概説する。さらに、最新の知見も紹介しながら、本講義に関連する研究の現状と問題点についても触れながら、将来の展望についても言及する。	
	生物化学特別演習	生物化学は、近年、健康や栄養学との関連が注目されるようになり、周辺分野との複合分野の研究が盛んになりつつある。本演習では、生化学、栄養化学、生理学、形態学等の生体の機能に関連する分野の原著論文や総説を輪読することにより、最先端の研究の動向を知るとともに、専門家や研究者に必要な発表や討論の能力を養う。また、特別研究を行う上で必要な情報の収集方法や、データの整理と統計的検定および論文執筆の訓練を行う。	
	栄養生理学特論	欧米型の食生活や外食の利用の増加などの食生活の変化、さらには生活環境・社会環境の変化に伴う身体生理への影響が問題となってきた。ここでは、新時代を担う青少年において大きな問題となっている肥満、摂食障害や食物アレルギー等を取り上げ、その原因と考えられる食習慣・生活環境・社会環境、それらに伴って起こる身体・生理的並びに心理的变化、食事療法・医療・カウンセリングの方法や実際の食指導・食教育等について、最近の調査結果・研究報告を材料に用いて論じ、問題解決の道を探る。	隔年
	実践栄養学特論	少子高齢化・超高齢社会の到来による医療費・介護費負担を軽減させ、健康寿命の延伸を実現するには、生活習慣病の発症予防と重症化予防が不可欠であり、食を通して健康づくりを担う栄養教育や公衆栄養学等、実践栄養学の重要性は増している。様々なライフステージやライフスタイルを持つ個人、あるいは特定集団を対象に、的確な栄養指導（栄養改善のための支援）を行う知識や技術を修得することを目的とする。栄養疫学の観点から食・健康情報に接し、「健康的な食生活」について考え、食育や食環境整備の実態と栄養改善に係わる課題の理解を深め、栄養アセスメント手法やカウンセリング・スピーチ術を習得し、食に関する的確な指導・支援を行い評価できる能力を養う。	
	実践栄養学特別演習	食育・栄養教育や公衆栄養学等、実践栄養学の対象となる様々なライフステージやライフスタイルを持つ個人、あるいは特定集団を対象に、的確な栄養指導（栄養改善のための支援）を行うための、知識や技術を修得することを目的とする。演習では、「栄養アセスメント」「栄養教育(食育)手法・ツール」「食環境整備」「栄養疫学」「高血圧予防・管理」に関する文献・資料の収集・読解、学会・論文発表に係わる協議・討論を行い、食に関する指導や食環境整備の実践や研究に必要な知識や技術を身に付ける。	
	人体生理学特論	近年、先進国では摂食障害が増加し、食・栄養教育上の重要な課題になってきている。摂食障害は生理学的、社会的、精神心理学的な複合要因から生じる行動異常と考えられるため、その理解には摂食行動などの本能行動や情動に関する神経生物学的知識が必要になってきている。本講義では、最初に1)神経系の構成と機能、2)神経系の発達、について基礎的な神経科学を学び、さらに3)自律神経系と情動、4)味覚・嗅覚の神経機構、5)摂食行動に関わる神経回路・生理活性物質、といった項目に重点をおいて講義する。	
	人体生理学特別演習	現代の食生活では、食事を「脳によってコントロールされる摂食行動」と捉える脳科学的視点が重要になってきている。摂食行動に関する理解は、行動を制御する種々の神経系機能分子の同定とそれらの個体レベルでの機能解析により急速に進歩してきている。この現状をふまえ、本演習では、摂食行動等の制御、味嗅覚の受容機構、神経系機能分子に関する最近の論文や総説などを選択し、輪読することにより、1)文献調査の方法、2)論理的な文章作成能力の養成、3)最先端の研究手法と動向、4)プレゼンテーションおよび討論方法について習熟する。	
	食品衛生学特論	先進国で発生している食中毒事件の9割は、細菌・ウイルスに起因している。食品流通がグローバル化している現在、日本で発生する主要な食中毒細菌・ウイルスだけでなく、世界的に重要な食中毒細菌・ウイルスについての理解を深める必要がある。また、これらの検出には従来から培養法が用いられてきたが、近年の技術進歩により分子生物学的、生化学的または電気化学的な検出法も用いられるようになったため、これら新しい細菌・ウイルス検出技術についても理解を深める。	
食品衛生学特別演習	細菌の検出には従来から培養法が使われていたが、近年の技術進歩により分子生物学的、生化学的または電気化学的な検出法も盛んに開発されており、実際に現場に用いられ始めているものもある。このため、培養法のみならず、新しい検出技術についての理解を深めることは重要である。本演習では、食品衛生学関連の最新の論文や総説を輪読し、最先端の研究の動向についての理解を深める。また、文献調査法、論理的な文章作成能力、プレゼンテーションや討論に関する技術を習得させる。		

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 学 領 域	臨床栄養学特論	栄養管理が特に重要となる各種疾患および病態について、その原因、病態生理、診断と治療の概要について学ぶ。また、その知識を基礎とし、それぞれの症例に適した栄養管理を行うことができるようになるため、身体所見や臨床検査値による栄養状態評価等の栄養アセスメントの原理や方法、各種栄養療法のそれぞれの特徴やその合併症等についても理解を深める。これらの学習を通じて、Nutrition Support Team (NST)の一員として、他の医療スタッフと意思疎通を図りながら、適切な栄養管理ができるようになるための知識を獲得する。	
	臨床栄養学特別演習	実際の症例を用いて、病歴、身体所見、検査所見などから患者の栄養状態を評価し、適切な栄養管理計画を立案することを学ぶ。また、臨床栄養学に関する論文や総説などの輪読・精読を行うことを通じて、最新の臨床栄養学の知識を習得するとともに、論文の読み方や、論文を作成する上で役立つ表現などを修得する。また、読んだ論文の内容をセミナーで発表し、討論を行うことにより、プレゼンテーションの技術を培うと共に、論理的な思考能力を養い、討論する能力を高める。	
	公衆衛生学特論	人々の健康と社会・環境との関係、日本の保健・医療・福祉の制度等について学び、地域で生活している人々を種々の自然・社会的要因から様々な健康影響を受けている集団として捉える視点を養う。また、そこで行われる各種疾病の予防や健康増進を目指す公衆衛生活動について理解する。さらに、集団における疾病の研究、すなわち疫学について基礎知識、研究手法とその問題点、および実際の研究例を学び理解を深める。	
	公衆衛生学特別演習	公衆衛生学あるいは疫学に関する論文や総説などを輪読・精読することを通して、これらの分野の最新知識を学ぶとともに、英語論文の読み方や、英語で論文を作成する上で役立つ表現などを修得する。また、読んだ論文の内容をセミナーで発表し、討論を行うことにより、プレゼンテーションの技術を培うと共に、論理的な思考能力を養い、討論する能力を高める。	
	運動生理学特論	運動によって誘導される急性および慢性適応能力について、生物に共通する機構という視点から整理し、人間の運動生理学を理解する。特に、1)適度なヒトの内部環境の維持において運動の果たす役割、2)動物の進化という視点からみた生存圏拡大や種の保存における運動の役割、3)運動と栄養、休養との関係に関する実験的研究、という視点から運動生理学・スポーツ医学を学び、その知識を食あるいは栄養に関する教育・指導の実践の場で役立てられるようにする。	隔年
	国際食流通学特論	グローバル化が進む中で、また経済の発展とともに、食料の生産・流通のシステムや、消費者の意識・行動は変化している。本講義では、食料の生産から消費に至る流れを「フード・システム」として把握しながら、そこで活動する各主体（農家、加工業者、流通業者、小売、消費者、政府など）の行動を、経済学およびマーケティングの理論を用いて理解していく。また、国際的な食料貿易の動向や、国際貿易の枠組みやルール（TPPなど）についても理解を深める。	
	国際食流通学特別演習	本演習では、国内外の食料流通・マーケティングに関する最新の論文を輪読し、グローバル社会における食料の流通、販売、消費に関する実践的理解を深める。また、国際的な食料の重要・供給の予測や、消費者の複雑な購買行動の把握には、経済学やマーケティング論に基づいた分析手法への理解が不可欠である。そのため、演習を通して、マーケティング・サイエンスの理論に基づいた市場調査や消費分析の手法について学び、いくつかの実践的な分析手法を習得する。	
	臨床栄養師特別研修Ⅰ	近年の医療においては、栄養サポートチーム加算の新設など医師、管理栄養士、看護師、薬剤師等によるチーム医療での栄養管理が重要な役割を果たしている。特に、栄養管理の専門職である管理栄養士の役割と責任が大きく拡大しており、そのため、臨床栄養管理に特化した管理栄養士の育成が必要となっている。 臨床栄養師特別研修Ⅰでは、原則として、急性期医療施設において、栄養ケア・マネジメント（給食経営管理を含む）による患者の栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養教育の実施、多職種との連携、モニタリング、評価に関する臨地研修を行い、臨床現場で必要とされる管理栄養士として専門性の高い知識や技術を持った高度専門職の育成研修を行う。なお、研修を実施するにあたり、指導教員による研修計画に沿ったの事前事後の指導を行う。	共同
	臨床栄養師特別研修Ⅱ	臨床栄養師特別研修Ⅱでは、原則として、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病、腎臓病、周産期や婦人科、周術期、脳血管障害等、各診療科と連携し栄養介入が必要な患者に対する栄養スクリーニングと栄養アセスメント（身体計測・臨床検査・必要エネルギー量・必要栄養素量・摂取量調査等）の結果に基づく栄養ケアプラン、栄養教育の実施、多職種との連携、モニタリング、評価等について臨床の管理栄養士に必要とされる疾病別の高度で専門的な知識や技術の習得のための教育研修を行う。なお、研修を実施するにあたり、指導教員による研修計画に沿ったの事前事後の指導を行う。	共同

授業科目の概要				
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 環 境 マ ネ ジ ン ト 領 域	栄養健康科学領域	臨床栄養師特別研修Ⅲ	臨床栄養師特別研修Ⅲでは、原則として、介護老人保健施設等に入所し長期療養が必要な患者で、特に高齢者の摂食機能に留意した栄養ケア・マネジメント(給食経営管理を含む)における患者の栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケアプラン、栄養教育の実施、多職種との連携、モニタリング、評価に関する臨床研修を行い介護老人保健施設等で必要とされる管理栄養士としての専門性の高い知識や技術を持った高度専門職の育成研修を行う。また、急性期医療施設と介護保健施設の施設間連携や地域医療連携についても具体的な知識や技術の習得のための実践的な研修を行う。なお、研修を実施するにあたり、指導教員による研修計画に沿ったの事前事後の指導を行う。	共同
		生活環境衛生学特論	人間の生活環境の場である衣・住環境(空間)を主に衛生学的側面に立って温熱環境(温度、湿度、気流、放射熱)、空気環境(正常成分:酸素、二酸化炭素等、異常成分:一酸化炭素、揮発性有機性化合物、浮遊粉塵等)、生物環境(微生物、衛生害虫、鼠族等)、人体生理、生活空間のエネルギー収支等の各要素から総合的に体系的に基礎・応用の両面を講述し、人にとって最も望ましい生活環境を検討させる。	
		住環境学特論	住空間の大きさ、形状など空間デザイン要素や、光環境など視環境要素を、人間が知覚・認知し、評価する過程を、種々の生活行動及び日内から生涯にわたる時間的経過において変動する目的との関係から講述する。またこれらの視点を基にして、都市や高齢社会などに対応する住まいと住まい方について講述する。	
		環境デザイン学特論	生活環境をデザインする上で、人間の特性を理解することは不可欠である。本講義では人間の生理的、文化的特性を、その性差、年齢差、人種差や生活習慣、文化的背景から明らかにする。これらを通して生活環境を人間中心の視点に立って、デザイン(設計)する際の専門知識や研究能力を取得する。	
		環境マネジメント特別演習Ⅰ	生活環境衛生学特論及び住環境学特論の講義を、国内外の基本的及び最新の論文を輪読することにより補足充実させる。更に生活行動と特定の環境因子の関わりを実験や調査を通して理解・把握させ、人間の生活・健康への影響を検討させる。 (3 森田 健) 物理的な生活環境の内、光・照明など視環境要素を取り上げ、生活行動、健康・快適性の関係について研究手法を学習する。 (4 大中忠勝) 物理的な生活環境の内、温熱環境や空気環境を取り上げ、健康影響、生活行動と省エネルギーの関係についての研究手法を学習する。	
		生活環境管理学特論	人間活動による環境負荷は従来生産上の問題が中心であったが、生活の利便性・快適性の欲求とともに、環境負荷に対する生活者の責任はかつてないほど重くなっている。私たちの周りには、エネルギー消費、食の安全、廃棄物、物質と自然環境の関わりなど、生活環境に関わる様々な課題に直面している。こうした生活の中で行われる自然環境と人間の関わりを資源利用の視点から科学的に分析し、持続可能社会やライフスタイルの見直しについて考察する。	
		環境マネジメント特別演習Ⅱ	人々の生活上の共同体(コミュニティ)を単位として、その共同体における生活の質や健康・資源利用について、研究論文を輪読して具体的な研究例をもとに学習する。 (9 庄山 茂子) ヒトの心理生理反応や生活行動を基に、生活環境をデザイン(設計)する研究手法を学習する。 (29 岩崎慎平) 環境に配慮した生活環境の維持管理を中心として、身の回りで起きている環境リスクに対処するための生活行動に関する分析・評価の研究手法を修得する。	
		環境政策学特論	人類はこれまでに様々な環境問題に直面してきた。環境問題を解決するための環境政策学は、比較的新しい分野の政策学であるが、これまでに様々な原則や手法が整理されてきた。本特論では、環境政策に係る様々な原則や手法について系統的に学ぶ。さらに、具体的な環境施策をとりあげ、どのような原則と手法が取り入れられているかを考察することによって、環境政策の合理性を判断する能力を習得し、環境問題の解決に向けた環境政策の立案ができる知識を身に付ける。	
	環境経済学特論	本講義では、エコロジー経済学の基礎を学んだうえで、地域の自然資源管理について研究を行う。山、川、海といった自然資源は、里山に代表されるようにこれまで地域住民によって共同で管理・利用されてきた。こうした地域共同資源管理のあり方は、世界的にはコモンズと称され、持続可能な資源管理の方策として注目を集めている。本講義では、コモンズに関する最新の研究成果を踏まえて、コモンズを現代的に再生するための政策について議論する。		

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境 管理 科学 専攻	環境マネジメント特別演習Ⅲ	<p>近年の環境意識の高まりにより、あらゆる環境政策は、地域住民の理解及び参加が無ければ有効に機能しない。一方で、環境問題のグローバル化が進む中、たとえ地域の環境問題であっても、地方行政だけで解決することは困難な場合が多い。したがって、国際的な環境政策、国家レベルの環境政策、地方自治体の環境政策及び地域レベルの住民による自治的な活動の効果的な連携が重要となる。本演習は、環境政策学特論および環境経済学特論の理解を深めることを目的とする。</p> <p>(20 岡山俊直)</p> <p>国際的、国内的、地域的な環境政策の連携を特に重視し、関連する国内外の重要文献を輪読することにより、国際環境政策と国内及び地域的な環境政策の効果的な連携の在り方について学ぶと共に講義を行う。</p> <p>(29 嶋田大作)</p> <p>環境政策学と環境経済学・コモンズ論の接点を特に重視し、関連する国内外の重要文献を輪読することにより、行政と地域住民の理想的な環境ガバナンスのあり方について学ぶと共に議論を行う。</p>	
	環境統計学特論	<p>実験や調査によって得られたデータは、基本的な要約を行った後で、適切な統計学的手法が適用される。統計学的手法は、変数の数、尺度水準、分析目的により非常に多くのものが提案されている。一見独立しているように思えるこれらの統計学的手法に対して、一般化線形モデルは、統一的な理論的・概念的枠組みを提供する。本特論の前半では、一般化線形モデルの観点から、種々の統計学的手法を解説し、環境データに対する適用例を示す。また、後半では、経験や事前情報を統計モデルに取り込むことのできるベイズ統計学について解説し、環境データに対する適用例を示す。</p>	
	環境情報学特論	<p>人、及び生物の営みは、その生命体としての生体維持機能と、それが生存する環境における生活行動機能とを、自己の生体内及び外部環境に関する情報を基にして制御することによって実行されている。従って、生物の行動において環境情報を有効かつ効率的に活用することは、個別ないしその種族の繁栄につながる重要な要因である。</p> <p>生物が環境情報をどのように利用しているのか、また人がその生活や活動に環境情報を活用するためにどのような工夫をしているのか、その手法を情報科学の観点から解析する。</p>	
	環境マネジメント特別演習Ⅳ	<p>本演習は、環境情報学特論および環境統計学特論の理解を深めることを目的とする。環境問題に関して数理・統計学的アプローチをとっている最新の論文の輪読およびコンピュータを利用した演習を行う。論文において提案されている数理モデルや統計モデルを、単に数理的に検討するだけでなく、実際にコンピュータ上のシミュレーション等により確認する。その過程で、提案されているモデルを改善したり、よりよいモデルを提案したりできる能力を身につけさせる。</p> <p>(26 藤野友和)</p> <p>環境統計学特論で学習した統計モデルによる実際の環境データの分析や適用したモデルの関連論文の輪読を行う。</p> <p>(28 藤岡薫)</p> <p>環境数理特論で学習した数理的な計算モデルを用いて、自然環境や社会生活に見られる問題を理解し解析するための計算手法を学習する。</p>	
	生活環境生理学特論	<p>生活環境の良否を人間側の生理反応によって判断するために必要な最新の知識を会得する。ここでは、生活環境に物理的環境条件の人間の生理機能へ及ぼす影響を人体生理学を基礎として体系的に講述する。また、高齢者やハンディキャップを有する人への生理影響についても論じる。これらを通してよりよい生活環境構築に際し、人間側からのアプローチを可能とする知識を習得させる。</p>	隔年
	人間工学特論	<p>生活環境のあるべき姿を人間-機械系の観点から検討する。生活環境の中で様々なテーマ(生活器具の使いやすさ、高齢者にとって望ましい器具、高齢者にとって快適な物理環境(温熱、光、音環境)など)を取り上げ、人間の生理、適応能力の観点から人間-機械系、人間-環境系のあるべき条件を検討する。</p>	隔年
	環境エネルギー学特論	<p>人間社会と自然環境が共生する社会の構築を目指すために必要な考え方(理論)や方法論について、様々な側面から総合的に学ぶ。生活の中で消費されている資源やエネルギーの実態について講義し、持続可能社会構築に必要な事項について検討させる。</p>	隔年
	環境マネジメント科学特別講義Ⅰ(環境生活系)	<p>環境生活は人の生活様式と地域や国内外の社会環境・自然環境との相互作用についての知識を養う総合的な学問である。本授業では、生理学、住居学、公衆衛生学、行動科学、環境デザイン学等の視点から環境生活を総括する講義およびその実習をおこない、環境マネジメント領域の最前線を教育する。</p>	隔年

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	環境マネジメント領域 環境マネジメント科学特別講義Ⅱ(環境政策系)	<p>本講義では、環境政策学・環境経済学・環境情報学・環境統計学の各分野において、最先端で活躍する実務者や研究者などのゲストスピーカーを交え、最新の知見や実践例について学ぶ。講義を聴くだけでなく、関連する事項について討論、プレゼンテーションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 岡山俊直/3回) 環境政策学に関する討論・プレゼンテーションに関する指導</p> <p>(26 藤野友和/3回) 環境統計学に関する討論・プレゼンテーションに関する指導</p> <p>(28 藤岡薫/3回) 環境情報学に関する討論・プレゼンテーションに関する指導</p> <p>(29 嶋田大作/3回) 環境経済学に関する討論・プレゼンテーションに関する指導</p> <p>(20 岡山俊直・26 藤野友和・28 藤岡薫・29 嶋田大作/3回)(共同) 講義の総括および全体討論に関する指導</p>	オムニバス方式・共同(一部)
基本科目	人間環境科学特論	<p>「人をめぐる環境の総合的理解」と「食と健康の統合的理解」について、本学専任教員がオムニバス形式で講義を行う。大学院の初年度に、研究科の基本テーマ「健康な生活を支える環境調和型社会づくり」をめぐり、環境科学領域と健康科学領域に属する本研究科担当教員の特色ある研究について議論するとともに、研究に取組む基本姿勢や方法論についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 森田 健/3回) 住環境、生活環境および社会環境の改善につながる研究の紹介</p> <p>(6 田村 典明/4回) 環境変化の生命現象への影響に関する研究の紹介および総括</p> <p>(10 池田 宜弘/4回) 講義の概要、自然・生活環境における汚染物質の影響および機能性材料の開発に関する研究の紹介</p> <p>(12 濱田 俊/4回) 食品・栄養および健康に関する研究の紹介</p>	オムニバス方式
	人間環境科学特別演習	<p>受講した学生全員が、修士論文のテーマについての説明やそれに関連した論文のレビューを行う。その際、英語でのテーマ発表や英語論文の紹介を推奨する。修士課程で行う特別研究の研究内容やそれに関連した論文を発表し、専門分野の異なる大学院生や教員と討論することにより、発表者および演習参加者の研究の深化を目指す。</p> <p>(3 森田 健) 住環境、生活環境および社会環境の改善などの研究に関する指導を行う。</p> <p>(6 田村 典明) 環境変化の生命現象への影響などの研究に関する指導を行う。</p> <p>(10 池田 宜弘) 自然・生活環境における汚染物質の影響および機能性材料の開発などの研究に関する指導を行う。</p> <p>(12 濱田 俊) 食品・栄養および健康などの研究に関する指導を行う。</p>	
研究科共通科目	国際研究活動	<p>海外での活動を通して、自らの研究を国際的な視野で位置づけ、研究を拡張・深化させることに加え、国際性、コミュニケーション能力を高めることを目的とし、国外の学会、大学、研究機関、企業などが主催する専門領域に関連した学会・プロジェクト等への参加や、国外での調査・研究活動等とその成果を単位として認定する。</p> <p>なお、単位としての認定を受けるためには、指導教員による研究計画の事前承認が必要であり、海外での研究活動(実働5日以上)に加え、担当教員による事前および事後の講義を受講する必要がある。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(24 新開 章司/5回) 国際研究における研究倫理および研究活動における総合的な指導を行う。また、研究計画について内容を吟味し承認する。</p> <p>(18 水元 芳・19 馬 昌珍・30 岩崎 慎平/10回)(共同) 食品・栄養および健康分野、自然環境分野、および生活と社会環境などに関するそれぞれの研究活動に対する指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授業科目の概要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	国際インターンシップ	<p>国際的な活動を行っている専門機関・企業での職業体験，または教育機関における専門領域に関連した活動への参加とその成果を単位として認定する。これらの活動を通して，自らの研究を国際的な視野で位置づけ，拡張・深化するだけでなく，国際性，コミュニケーション能力を向上させる。なお，単位としての認定を受けるためには，指導教員および研究科長による研究計画の事前承認が必要であり，海外での研究活動(実働15日以上)に加え，担当教員による事前および事後の講義を受講する必要がある。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(18 水元 芳／5回) 国際的なインターンシップ活動等における総合的な指導を行う。</p> <p>(19 馬 昌珍・24 新開 章司・30 岩崎 慎平／10回) (共同) 食品・栄養・健康、自然環境、生活環境、社会環境などに関するそれぞれの活動に対する指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	専門職特別研修	<p>21世紀のグローバル社会では、研究倫理を順守した研究活動に加え専門知識を創造的且つ実践的に活かせる能力と、それを実社会で活用するマネジメント能力が求められている。そこで、国内の公的機関や民間研究施設等において専門領域に関連した一定期間のプロジェクト参加を含む就業体験を実施し、その成果を単位認定する。この就業体験で、知識応用力、問題発見・解決能力、企画力、洞察力を実践の中で磨き、専門の学問領域が実際に活用される現場と大学院における学習と研究の関係や意義を理解し、専門的職業人としての社会的責任を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(8 中村 強／2回) 就業体験に関する事前・事後指導および知的財産に関する指導</p> <p>(11 吉村 利夫／2回) 就業体験に関する事前・事後指導および研究倫理に関する指導</p> <p>(8 中村 強・11 吉村 利夫／11回) (共同) 国内の公的機関や民間研究施設等への就業体験の実施・運営を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(人間環境科学研究科人間環境科学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目	特別研究	<p>人の健康や生活とそれを取り巻く環境の創生に関する専門領域において、創造的な研究能力、問題解決能力を養成し、各研究課題に応じた論文指導を行う。</p> <p>(1 佐藤 一紀) 生物化学・有機化学の学問領域での研究手法を用いて、生物活性ペプチドの構造活性相関の解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 山田 真知子) 環境生態学の学問領域から、閉鎖性海域の生態学的特性の解明とその保全に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(3 森田 健) 生活環境の光・照明などの視環境要素が、ヒトの生体リズムに及ぼす影響に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(4 大中 忠勝) 衛生的な視点に立って、温熱・空気環境を中心とした健康で快適な居住空間の構築に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(5 早瀬 仁美) 食と健康に関する栄養疫学的研究および食育・食環境整備に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(6 田村 典明) 植物における酸素発生機構およびストレス耐性獲得の分子機構に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(7 藤岡 祐一) 持続型社会形成のためのエネルギーシステムを構築するために必要なエネルギー転換技術に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 中村 強) 動物における酸化ストレス状態の評価および栄養素の生体抗酸化能(酸化ストレス軽減効果)に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(9 庄山 茂子) ヒトの心理生理反応、生活行動を基にした環境デザイン手法に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(10 池田 宜弘) 物理化学・熱力学・統計力学の学問領域の研究手法を用いて、界面現象および界面における両親媒性物質の挙動の解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 吉村 利夫) 高分子化学の学問領域を主体として、環境調和型高分子材料の創製に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(12 濱田 俊) 栄養素と神経機能の関係、味嗅覚の神経機構に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(13 太田 雅規) 疫学的な手法を用い、各種疾病の予防や健康増進を目指すための研究指導を行う。</p> <p>(22 石川 洋哉) 食品科学・食品分析学の学問領域を主体として、食品成分の二次・三次機能評価および機能性食品の開発に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(23 高橋 徹) 生体内における食物成分の機能評価に関する研究の研究指導を行う。</p>	